



第2章 基本的な考え方

1 考え方の基盤(「真の豊かさ」にあふれるまち)

本市では、市民・NPO、事業者、行政などが幾度も議論を重ね、2004年10月に、世界の環境首都を目指して共に取り組む活動ビジョンである「グランド・デザイン」を策定しました。この環境首都グランド・デザインでは、「自分が変われば、まちが変わる。地域の取組みが世界を変え、地球を良くしていく」ことを前提に、わたしたち一人ひとりが主役となっています。

その上で、経済的・物質的な豊かさだけではなく、多様性、公平性、安心、希望や感動や生きがい、優しさや誇りなど、精神的な豊かさを総合したものを「真の豊かさ」とした上で、未来の世代に引き継ぐことを基本理念として、「共に生き、共に創る」、「環境で経済を拓く」、「都市の持続可能性を高める」という3つの柱を掲げ、北九州市民環境行動10原則を定めています。

「北九州市環境基本計画」は、環境首都グランド・デザインを基本理念とした行政計画として策定したものであり、同計画の部門別計画に位置づける本計画においても、市民・NPO、事業者、行政それぞれが主役となり取り組むビジョンである環境首都グランド・デザインの理念を基本的な考え方の基盤とします。

(参考)環境首都グランド・デザインの要旨

■環境首都グランド・デザインとは……

「人と地球、そして未来の世代への北九州市民からの約束」

このまちの環境を良くし、経済を活性化させ、ずっと快適に住み続けられるまちにするために、そして「環境首都」として認められるすばらしいまちを目指して、市民、団体、事業者、行政など地域のあらゆる人々が力をあわせて行動を起こしていくための活動ビジョン

前文

“環境は人の生存を支えるために欠くことのできないもの”との原点に立ち返り、「真の豊かさ」にあふれたまちを育み、未来の世代に引き継ぐことを決意する。

背景と決意：なぜ環境首都を目指すのか

地域の取組が重要であること
持続可能な社会への役割を率先して果たしていくことが使命
ここで暮らせて良かったと心から思えるまちにすること
次のような課題を解決するため
(ものを大切にすること、美しい街並み、マナーやモラル、エネルギー、情報共有・協力、など)

北九州市民環境行動10原則

- ① 市民の力で、楽しみながらまちの環境力を高めず
- ② 優れた環境人財を産み出します
- ③ 顔の見える地域のつながりを大切にします
- ④ 自然と賢くつきあい、守り、育みます
- ⑤ 都市の資産(たから)を守り、使いこなし、美しさを求めます
- ⑥ 都市の環境負荷を減らしていきます
- ⑦ 環境技術を創造し、理解し、産業として広めます
- ⑧ 社会経済活動における資源の循環利用に取り組みます
- ⑨ 環境情報を共有し、発信し、行動します
- ⑩ 環境都市モデルを発信し、世界に環を広げます



2 「環境と経済の好循環」の実現

本市は、産業都市として発展する中で、市民、企業、大学、行政が協力して公害対策を進めることによって公害を克服し、その経験を環境国際協力に活かしてきました。そのような取組みが国連から評価されて国連自治体表彰等を受け、ヨハネスブルクサミットでは環境都市のモデルとして明記されました。さらに、2012年には、OECDからグリーン成長都市としてアジアで初めて選定されるなど、大きな成果を収めています。

現在、世界の潮流となっている脱炭素社会の実現は、経済成長の制約ではなく、産業構造や経済社会の変革をもたらし、経済成長、雇用創出、イノベーションなど大きな成長につながるものであり、脱炭素社会づくりを新たな成長戦略として捉え、「環境と経済の好循環」を生み出していく必要があります。

本市としても、これまでの都市の成り立ち、基盤・特徴や社会情勢に応じた都市のあり方を踏まえながら、産業都市としての脱炭素社会のあり方(モデル)を提示します。

3 世界の脱炭素化への貢献

人間活動に起因する諸問題を喫緊の課題として認識し、国際社会が協働して解決に取り組んでいくため、「持続可能な開発のための2030アジェンダ」では目標達成に向けて、地球上の「誰一人取り残さない」ことを明確に掲げています。その中のSDGsの17のゴールの一つに『気候変動』が掲げられており、SDGs全体の達成に向けて、他のゴールとも整合的に気候変動対策を進めていく必要があります。

本市は、2010年に、環境ビジネスの手法を活用し技術輸出を行うことで、アジアの低炭素社会の実現と本市の地域経済の活性化を図るための中核機関として、「アジア低炭素化センター」を開設し、国や国際機関と積極的に連携しながら、都市間環境国際協力を推進し、これまでも、アジアを中心として持続可能な社会の実現に貢献してきたところです。

今後も、本市が目指す脱炭素社会づくりにおいて蓄積される知見と経験を元に、環境と経済の好循環を生み出す新たな「北九州モデル」を構築するとともに、同モデルを活用して新しい環境ビジネスを生み出し、これまで以上に都市間環境国際協力を促進し、近代産業発祥の地から、この新たな「北九州モデル」を広く展開し、世界の脱炭素化に最大限貢献していきます。

以上を踏まえ、北九州市は、

『環境と経済の好循環による脱炭素化を軸に、都市や企業の価値・競争力を高め、快適で災害にも強く、誰もが暮らしやすい社会』の実現を目指すこととします。



【ポイント👉】国連「持続可能な開発目標(SDGs)」

2015年9月の国連サミットにおいて「我々の世界を変革する:持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択されました。

同アジェンダにおいて記載された「持続可能な開発目標(SDGs)」は、2030年までに達成すべき世界共通の目標です。17のゴールと169のターゲットで構成されます。「誰一人取り残さない」社会の実現をめざし、貧困や飢餓の根絶、気候変動への対応、生態系や森林資源の保全など、環境、経済、社会をめぐる広範な課題に、総合的に取り組むこととしています。

具体的なターゲットとして、目標7では「2030年までに、世界全体のエネルギー効率の改善率を倍増させる」ことなど省エネや再エネ等の推進が記載されており、目標11では「2030年までに、包摂的かつ持続可能な都市化を促進し、すべての国々の参加型、包摂的かつ持続可能な人間居住計画・管理の能力を強化する」ことなど、「都市」の役割の重要性が記載されています。

また、目標13では「すべての国々において、気候関連災害や自然災害に対する強靱性(レジリエンス)及び適応の能力を強化すること」や、「気候変動の緩和、適応、影響軽減及び早期警戒に関する教育、啓発、人的能力及び制度機能を改善する」ことなど、緩和策と適応策の推進が記載されており、地球温暖化対策は、これらの目標以外にも幅広く関係しており、SDGsと密接な関わりがあります。

本市は、OECD(経済協力開発機構)より、SDGs 推進に向けた世界のモデル都市に、アジア地域で初めて選定されています。OECDは、モデル都市を対象として調査・分析・評価を行い、都市・地域レベルの取組みを世界中に広げているとしています。



出典：国際連合広報センター